

連載小説②

鳴津 亮太 (八尾市在住の小説家)

こなす、こなす、こなす。仕事とは必要状況に合わせて迅速な対応を執り行うことである。現象のあるべき姿を見極めることが大切なのだ。私は回り道が嫌いだ。最短距離で目的を果たしてこそ、プロフェッショナルだと言えよう。

薄月のせいか調子が狂う。音楽は治療を促し、文学は精神を崩壊させると誰かが言った。確かにそうかもしれない。ただ活字が織りなす物語の幻想はあまりにも美しい。所詮は言葉の選択、配列だけの話である。その一つ一つの所作に愛が込められた文章を眺んだとき、私は圧倒的な快楽に浸ることができた。

それに比べれば現実などは取るに足らない。言い方を換えれば夢の足にもならない。事実は小説より奇妙なりというが、小説は平坦な物語さえも、表現次第で美しく彩ることができるのである。その浪漫が分かっては馬鹿だ。

できるならば、洗練された小説の世界を途切れることなく頭の中に映し続けたい。そこにはあらゆる悪も、妬みも、痛みも、汚れも、麗しい生命が宿っているのだ。

寺田は愚鈍だ。女に狂った家畜である。この男は性交以上の快楽を知らない。だから頭の巾着に女のこぼれ髪を、こんな下等な雄猿にガリシア・マルケスの非合理的なリアリズムが分かってしまえばいい。

西田は悪魔に呪われた犬である。ある瞬間から盲目になった。生活の全てが己の中で完結してしまっただけで、もはや何人にも彼を呼び起こすことはできない。それは能動的な動きによってのみ打開される。己の力でこの世界に蘇生するしかない。彼が己の中の樹海に彷徨いこんで以来、私は本当の西田とは会っていない。故に彼の言葉は私には届かない。それがたとえ仕事上のことであつたとしても。

薄毛の酔い。現実から離れるという意味合いにおいては私と同類項かもしれない。気を失っている分、他の連中よりマシンではあるが、軽蔑に値しない訳はない。お前さえいなければ今頃私は家に帰り、ウイスキーのミルク割りで体を温めながら読書を楽しめたであろう。最も情にへき存在である。

背の低い気狂い。全てを諦めた眼には光は宿らない。息をする度に精神が腐乱する。これまでの人生に何があったのかは知らぬが、最も注意すべき人物だ。ただ、私には何の関係もない。

私の運転する席の後方で四者の狂騒が始まった。何がきっかけかは知らぬ。そして興味もない。私の口から溜め息が洩れた。どれもこれも満目のせいだと思いたい。



近八尾行進曲

問題というのはそれは自体を無視して強引に目的を果たす方法とその要因を小さく分けつて一つずつ風漬くの要領でクリアしていく方法の2種類がある。この瞬間、私は後者を選んだ。アクセルを踏んだまま、助手席に居るガリシア・マルケスの全集を左手に握り、虫もともフロントガラスに叩きつけた。

大きな音を立て全集はガラスに直面した。おぞらく虫は装丁の上で負相な姿で潰れている。愛読の書を汚すことが私にとってどれほどの傷を与えるか、他の者に分るはずもない。しかし背に腹はかえられない。と、後方は静まり返った。その瞬間、全ての問題が解決されたような気がした。1つが消えれば連動して全てが治まる。問題というものは得てしてそのようなものである。

ルームミラーを覗くと西田が虚脱したようにへたりこんでいる。そしてちらりと目をやる。背の低い気狂いがたりと邪悪な笑みをこぼしているのを私は見逃さなかった。

この間、アクセルペダルは一時として緩まることはなかった。車は病院のすぐそばまで来ていた。

文中に差別表現ととられかねない箇所が散見しますが、筆者自身に差別的意図はなく、作品自体のもつ文学性を鑑み、原文通りにしました。(編集部)

次号(7月15日付)に続く

近八尾行進曲

地元で人気のシェ・アオタニ

いちばん人気は石切もちどら



洋菓子部門の1級技能士 資格所持
洋菓子製作指導員

シェ・アオタニは近「シェ」はフランス語 ポレオンに20年間働いた。お客は、絶好のロケータンシェフの青谷展行の修業を積んだ。修業 変わらないシヨにある。豊かな(6)は奈良県香の成果で、洋菓子部門 雰囲気でも緑と花に囲まれたお洒 芝居出身であり、美容の1級技能士および洋落な造りの店がひと 宛に1年勤めた後、八菓子製作指導員の資格 ように努めきわ目立つ。店名の 尾の洋菓子店モン・ナを取得している。

西洋浪漫菓子 シェ・アオタニ

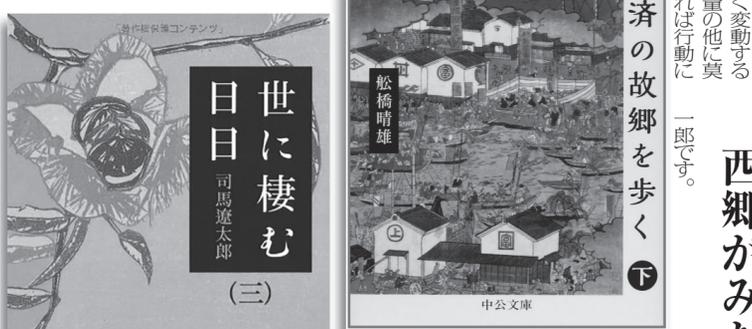
オーナーシェフ 青谷展行
東大阪市西石切町1-5-37
TEL 072-982-7546
営業時間 9:30~19:00
定休日 不定休

シエ・アオタニの開業は1998年8月26日、以来20年余の努力で、地元で活躍する野田しょう子東大阪市長(63)に相談したところ、東大阪医療センター職員(抹茶ブレンド)を寄贈しようという話等々、シヨケースをになった。そして、5月11日に石切もちどら1600個を寄贈した。青谷展行の好きな言葉は「礼を尽くす」。日から10日間休業の対応をとり、再開後は徹底的に消毒とお客の入店調整やオープンカフェの閉鎖等、できる限りの対応策を講じている。(小川秀人)

楽書楽読帳

社会や政治が大きく変動するときは、世論の熱帯の他に莫大な資金などがなければ行動に

つながらず。幕末の高杉晋作は奇兵隊を率いるために下関の荷受問屋小倉屋の白石正一郎(ししやういちろう)と資金援助を申し出た。思想や理念、大志に共感して、惜しみなく心援した一陰の支援者が、白石正一郎です。



西郷がみた白石正一郎

7年11月に初めて正一郎と会い、その印象を薩摩藩の市来正之丞に手紙で伝えています。産経新聞編集委員・宮本雅史氏の「明治維新を支えた男 白石正一郎日記」によると「至全体温厚の質」と評されています。清直「風儀雅品」と最大級の褒め言葉を連ねている。誠忠を感ずる者「相見得申候」とある。忠義があり、礼儀正しという意味だ。初対面でのこの評である。西郷がいかに正一郎を評価し、信頼を寄せていたかがわかる。西郷は好き嫌いが激しく情緒的と言われているが、人物鑑識眼は確かだったと思えます。西郷は安政元年

西郷がみた白石正一郎

(1854年)1月、参勤交代の参籠中にも江戸へ、4月には薩長役に抜擢され水戸藩主徳川昭陽の側近に改革派の水戸士の権威・藤田東湖と、福井藩士で蘭方医学を学ぶ西郷に詳しい橋本左内と出会い交流を深めます。西郷が最も大きな影響を受けた人ですから、人物を見極める評価レベルは高かったでしょう。

さて、話を月照らの逃避行に戻します。月照、大槻重助、北条右門、有村俊斎(海江田信義)の4人は白石邸でかくまわれて1泊し、安政5年(1858年)10月2日、九州に渡ります。正一郎は出張中で月照に会っていません。

北前船や瀬戸内の便船などの往来で商人や藩士らが白石邸を訪ねた克明な記録が「白石正一郎日記」です。松橋晴雄著「日本経済の故郷を歩く」(中公文庫)には「長州においては高杉晋作、桂小五郎、久坂玄瑞、伊藤博文、山縣有朋、井上多聞など、薩摩においては、西郷隆盛、大久保利通、村田新八、海江田信義、土佐の坂本龍馬、中岡慎太郎、谷干城、筑前の平野國臣、野村東望ら1000余人、正一郎は財力だけではなく、人間的魅力あふれる愛國の士でありバトロンだったのです。

世に棲む 日日

私には、古くは、基本的な、人間が、次のステージに進化する、もうじきネットワークが技術的特異点(シンギュラリティ)に到達する。この圧倒的な情報量を糧として、プログラムが自らを超える新たな知性を生み出すのが目的だ。

リアルからバーチャルへの移行により、人指数関数的に知性の発露を促した。偏見や分断を生み出した。数えきれない人々を殺した。それでも、人類と私の共生関係は続いた。

私は言語。代わって、ネット上のコミュニケーションやアップロードされた光ケーブル、企業テレワークが増加し、私はここからいかなるが保有するサーバー、YouTubeやNetflixのような配信プラットフォームが、魂のない言語、どうやら人類との付き合いも、き合いもこのよきや、これは魂が入った。人が家にもこもった言語を届ける最後のメソッド。私を成長させてくれた。私は数が増えた。古く私の最期を取って、私には情報だけが満足しない。てくれよう。

自分史・社史出版のお手伝い

記憶は一代、記録は末代

地元八尾の出版社だからこそできる きめ細かな本作り

永続する 会社には 社史がある

著者と編集者が二人三脚で本作り

株式会社 ドニエプル出版
TEL.072-926-5134
〒581-0013 八尾市山本町6-2-29 FAX.072-921-6893
ドニエプル出版

関西防衛を支える会 TEL.06-4256-4868

東大阪中央ロータリークラブ

医療用テントを東大阪市に寄贈

非常事態宣言は解除したわけではない。数は2波、第3波の恐れもされたが、新型コロナ減ったものの、感染者もある。東大阪中央ロータリークラブは、先きに終息は出ている。また、第3波の恐れも

野田義和市長(右から2人目)と東大阪中央ロータリークラブのメンバー

野田市長は、東大阪中央ロータリークラブのメンバーから、医療用テントを寄贈された。野田市長は、東大阪中央ロータリークラブのメンバーから、医療用テントを寄贈された。

ペットちゃんの 永代供養墓 Familiar

年4回の合同供養会 合同供養墓 個別墓 どちらでも供養可能

美原東口イオンメモリアルパーク

株式会社 関西メモリアル 0120-1212-94

自衛隊と教育現場のリーダーシップ 国防と教育 竹本三保 著

